

論文投稿から掲載までの流れ, 投稿に際しての注意

学会誌編集委員会 副委員長
瀬田和久(大阪府立大学)

概要

1. 学会誌の紹介と関連Webページ
2. 本学会で扱う論文の種別
3. 採録までの流れ
4. 採否の判定
5. 二重投稿の禁止について
6. 諸注意

教育システム情報学会誌とは

- 年4回発行
会員の独創的な研究成果の発表,
および会員の意見発表, 討論, 情報交換の場を
提供することを目的として刊行
- 特集号を企画(基本的に年1回)
最新のトピックやニーズの高い研究領域を対象

会員からの論文投稿を年間を通して受け付けている
(ただし、特集号は投稿期限あり)
※ 著者のうち**最低1名は会員**である必要あり

投稿方法

<http://www.jsise.org/> → 学会誌原稿執筆要領ページへ

電子投稿システムから投稿
学会誌原稿執筆要領を確認

▶ お知らせ ▶ 年間カレンダー ▶ サイトマップ ▶ お問い合わせ ▶ English

JSiSE 一般社団法人
教育システム情報学会
Japanese Society for Information and Systems in Education

北海道支部 北信越支部 東海支部 関西支部 中国支部

ホーム 学会概要 **学会誌** ニュースレター 全国大会・研究会等 入会のご案内

ホーム > 学会誌 > 投稿のご案内 > 執筆要領

学会誌 (和文誌)

- ▶ 学会誌一覧
- ▶ 投稿のご案内**
- 執筆要領
- 原稿テンプレート
- 著作権規程
- 投稿はこちらから：電子投稿システム
- コミュニティプラザ執筆要領
- 論文執筆チュートリアル

英文誌

執筆要領

- **学会誌原稿執筆要領 (2014年1月改定)** 
- 「学会誌原稿執筆要領」の一部改定について 

論文紹介・読者の声)執筆要領 

概要

1. 学会誌の紹介と関連Webページ
2. 本学会で扱う論文の種別
3. 採録までの流れ
4. 採否の判定
5. 二重投稿の禁止について
6. 諸注意

投稿論文の種別

- 原著論文
- 実践論文
- ショートノート(4ページ。7ページ以上は掲載しない)
- 実践速報(4ページ。7ページ以上は掲載しない)

投稿時に論文種別を選択

執筆要領の一部改訂について

2011 年 9 月より適用

【原著・実践論文】

- ・12ページ超過の際は理由書を提出（形式は任意）

【ショートノート，実践速報】

- ・ページ数制限を厳格化
（7ページ以上のもものは掲載しない）
- ・論文要旨，著者紹介を廃止

2012 年 9 月より適用

- ・二重投稿に関する規定の明確化
（後ほど詳しくご説明します）

2015 年 2 月より適用

- ・カバーレター提出の必須化
（後ほど詳しくご説明します）

概要

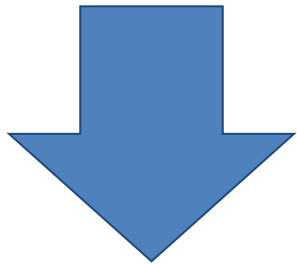
1. 学会誌の紹介と関連Webページ
2. 本学会で扱う論文の種別
3. 採録までの流れ
4. 採否の判定
5. 二重投稿の禁止について
6. 諸注意

学会誌に掲載されるには

論文投稿

※ カバーレターの提出が必須.

この中で、主張したい新規性、有用性の説明を加えていただけるようになっていきます.



編集委員会による査読

各論文種別に要求される基準を満たす論文のみ掲載

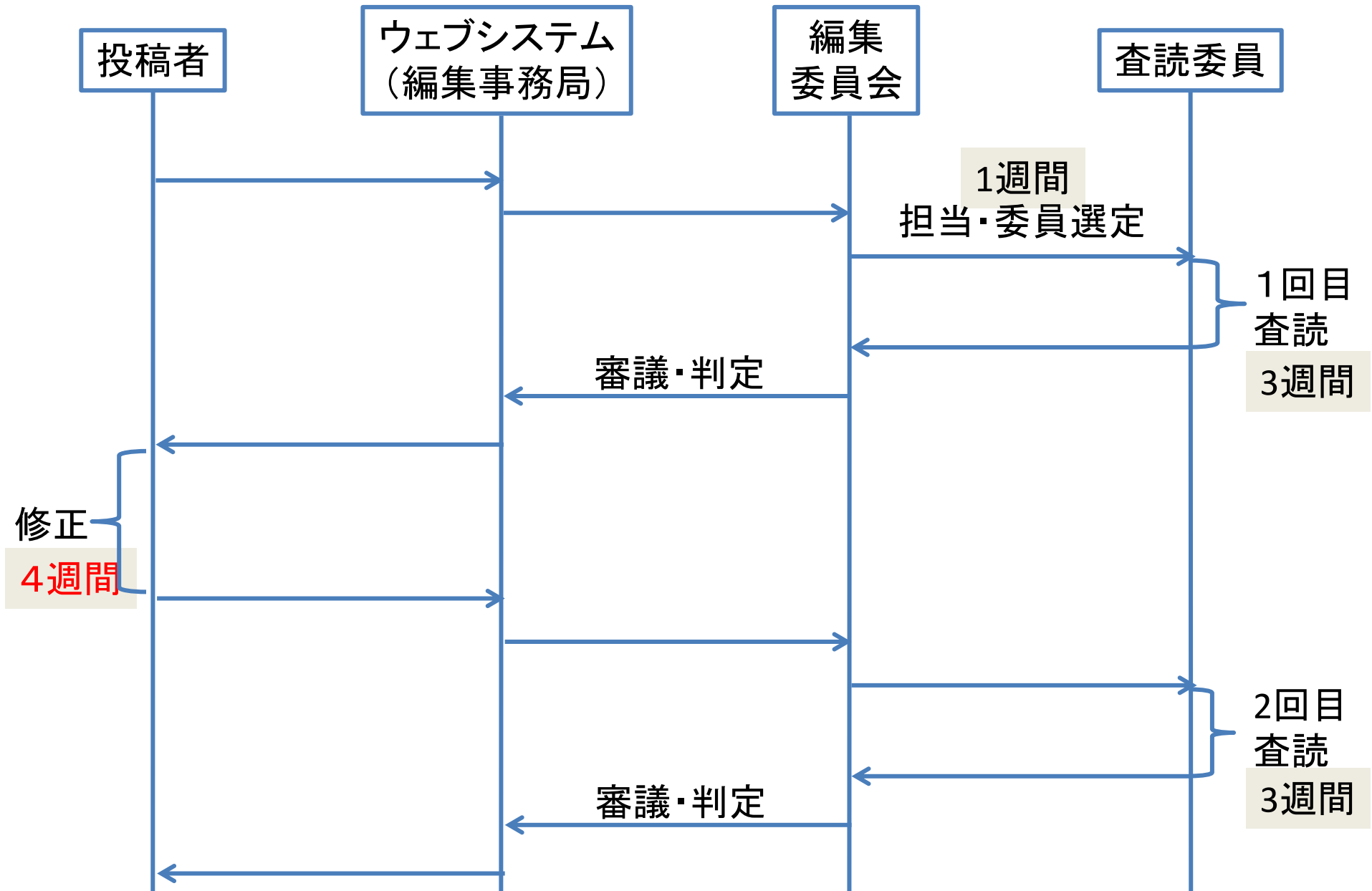
学会誌に関わる組織

- 論文誌編集委員会
 - 編集委員長・副委員長
 - 編集委員幹事
 - 編集委員（特集号では増員することもある）
- 論文誌編集事務局（株式会社国際文献社）
- 査読委員（原則として会員）

判定の方法

- 投稿論文1本に対し、1名の論文担当を割り当てる
(編集委員が論文担当となる)
- 投稿論文1本に対し、1～2名の査読委員を割り当てる
(原著/実践論文:2名、ショートノート・実践速報:1名)
- 論文担当は、査読委員の査読結果に基づき、
採否の判定を行い、編集委員会に提案する
- 編集委員会で審議を行い、
委員長決裁により審議を終了する

投稿から判定までのながれ



概要

1. 学会誌の紹介と関連Webページ
2. 本学会で扱う論文の種別
3. 採録までの流れ
4. 採否の判定
5. 二重投稿の禁止について
6. 諸注意

判定の種類

採録:

投稿原稿のまま掲載

条件付き採録:

掲載に必要な要件を満たさない部分を指摘し、
改稿により採録条件を満たした場合にのみ掲載

種別変更を伴う条件付き採録:

論文種別の変更(原著系 \leftrightarrow 実践系、フル \rightarrow ショート)を
伴う条件付き採録

返戻:

- ・掲載の水準に至らない。掲載には大幅な修正が必要。
- ・(1回目判定が条件付採録の場合)
採録条件を満たしていない

条件付き採録について

必ずしも採録を保証するものではない

- ・採録条件に対して、十分に応えていない
- ・改稿により、全体の論旨が整合しない



返戻(不採録)

修正機会は1度のみ。

修正論文には、査読者・編集委員に改稿の主旨や改稿箇所を説明する文書を添えることが普通です。

返戻について

～条件付き採録との境界線はどこに？～

1回の修正では採録レベルに到達できないことが予想される場合、期間内(4週間)の修正が困難な場合

- ・修正箇所がきわめて多い
- ・修正に長期間を要する(再実験を求める場合など)
- ・論理展開が不適切で、修正すると全く構成が変わる
- ・著者の主張点が不明確
(何を明らかにしたと主張する論文なのか不明)

必ずしも研究内容を否定しているわけではない

再投稿を勧めたい

種別変更を伴う条件付き採録について

○種別がマッチしていない

- 論文種別の定義の誤解

○要点を絞り込むことで論文の水準を満たす

- 有益な内容であり、速報的に掲載が望まれる
(原著→ショートノート、実践論文→実践速報)

前提:

- 軽微な修正(1回の修正)により変更可能

二重投稿の禁止について(1)

・当学会では論文の二重投稿を禁止しています。

どのような行為が二重投稿にあたるか[執筆要領3. 2]

投稿された論文が、投稿者あるいは連名者が執筆した論文で定期刊行物(国内外の学術雑誌, 商業雑誌, 大学・研究所紀要等)や単行本, 並びにこれらに準ずる媒体に**投稿中**あるいは**既公刊**(電子媒体での刊行を含む)のものと, **実質的に内容が同一もしくは主要部分が類似**している場合は二重投稿と判断し, 原則として**論文審査の対象としない**.

ただし以下の刊行物は, 二重投稿の判断の対象に**ならない**。

- (a) 研究会論文, 大会予稿集掲載論文, 国際会議予稿集掲載論文, 技術報告
- (b) 卒業論文, 修士論文, 博士論文
- (c) 科研費などの研究報告書
- (d) 本学会のショートノートや実践速報として掲載された論文(投稿論文を原著論文または実践論文の種別で投稿する場合に限る)
- (e) その他, 編集委員会が認める刊行物

二重投稿の禁止について(2)

二重投稿に関するその他の規定[執筆要領3. 3), 5)]

- ・編集委員会が二重投稿と判断した場合、採録された論文の取り消しを含め罰則を科す場合がある。
 - 当該論文の取り消しだけでは済まないこともあります。
- ・本学会に論文を投稿中もしくは論文の採録決定後に、実質的に内容が同一あるいは主要部分が類似した論文を他の学会に投稿してはならない。
 - 他学会への投稿も禁じています。

(以上の規定は2012年9月より適用)

実際に問題になったケース

「最初に採録判定を受けた学会に掲載してもらったつもりで、複数の学会に同じ内容の論文を投稿した。それが禁止されているという認識はなかった」

カバーレター添付の必須化 (2015.2)

タイトル, 著者, 所属, 論文カテゴリ, (論文の要約と意義,)
論文書式, 倫理的事項, 二重投稿, 利益相反

教育システム情報学会 学会誌カバーレター

2015/2

教育システム情報学会 学会誌に論文を投稿する際には、本カバーレターを添付してください。※は必須項目です。

- (1) 論文タイトル※:
- (2) 著者名・所属※:
- (3) 論文カテゴリ※: 原著論文・実践論文・ショートノート・実践速報 (いずれかを残す)
- (4) 論文の要約と論文の意義: 特に、学会誌原稿執筆要領第2項の投稿論文の各種別における、新規性、有用性、信頼性の観点に照らした論文の主張点。この項目の記入は任意ですが、査読判定時に参考になりますので、記入されることを推奨します。

- (5) 論文書式の確認※: いずれかが「いいえ」の場合、投稿できません
 - (a) 1ページ横24字, 縦41行×2段組みの書式である はい・いいえ
 - (b) 原著論文・実践論文の場合, 12ページ以内である はい・いいえ・理由書添付
 - (c) ショートノート・実践速報の場合, 6ページ以内である はい・いいえ
 - (d) 図表内の文字サイズは7ポイント以上である はい・いいえ
 - (e) その他, 投稿規定の書式指定を順守している はい・いいえ
- (6) 倫理的事項の確認※: 「いいえ」の場合、投稿できません
実験等における被験者・学習者の人権的配慮がなされている はい・いいえ・非該当
注) 所属組織の倫理規定に従っている場合は、その旨を論文に記載していただければ結構です。
- (7) 二重投稿に関する事項の確認※: いずれかが「いいえ」の場合、投稿できません
 - (a) 学会誌原稿執筆要領第3項の二重投稿の定義を確認した はい・いいえ
 - (b) 上記の定義に該当しないことを著者全員が確認した はい・いいえ
- (8) 利益相反に関する事項の開示※
 - (a) 利益相反に関する事項はない はい・いいえ
 - (b) 上記が「いいえ」の場合, その内容
注) 利益相反に該当する事例としては、研究の対象が補助金や謝礼を受け取っている企業の製品の場合など、論文に関連する利害関係が挙げられます。このような場合は、利益相反に該当しますので、補助金や謝礼を受け取っている旨を以下に記載してください、ただし、これによって論文が投稿できなくなるわけではありません。

概要

1. 学会誌の紹介と関連Webページ
2. 本学会で扱う論文の種別
3. 採録までの流れ
4. 採否の判定
5. 二重投稿の禁止について
6. 諸注意

採録時の費用について

全ての採録原稿において、
最低100部の別刷購入を義務

頁\部数	100部	200部	300部
1~2	18,000円	36,000円	54,000円
3~4	24,000円	42,000円	60,000円
5~6	30,000円	48,000円	66,000円
7~8	36,000円	54,000円	72,000円
9~10	66,000円	90,000円	114,000円
11~12	102,000円	132,000円	162,000円
13~14	174,000円	204,000円	234,000円

14ページ以上については別途相談

書式等の注意事項

執筆要領に従った書式・枚数にて執筆＆投稿
(刷り上がりイメージにできるだけ近い状態で！)

「論文執筆用テンプレート」の利用をお勧めします
→ 学会HPの投稿のご案内→原稿テンプレート
からダウンロード

※現状ではWordフォーマットのみ

投稿をお待ちしております

電子投稿システムを利用して投稿を行ってください。

1. 初めて電子投稿システムを利用する場合は、はじめに利用者用IDの発行手続きをしてください。
2. 投稿論文は印刷イメージに近い書式でPDFファイルとして作成し、投稿(アップロード)してください。
3. 投稿時に、論文種別、表題(和英)、著者名、連絡先、関連分野、キーワード、和文概要(500字以内)等必要な情報の入力を忘れずに。
4. 紙媒体による投稿は受け付けておりません